



ぶらり相生第8号

平成29年9月

## 「戦国時代の鐘 ここ相生にあり」

前号に続き、本号も相生の戦国期にまつわるぶらりです。数奇な経緯をたどった鐘が、JR西相生駅北西約400mの相生市佐方の慈眼寺にあります。慈眼寺は、浄土真宗本願寺派の寺院で、現在でも立派な寺容を誇っています。梵鐘の銘文によると室町時代の文明9（1447）年美作国長岡莊（現在の岡山県久米郡柵原町から美咲町）にあった上原寺の鐘として、



鑄物師藤原右兵衛尉助弘によってつくられたことがわかります。この鑄物師の藤原氏は、藤原氏を名乗る百濟氏で、百濟氏が作った中世の梵鐘は、他に岡山県津山市安国寺に現存するものと、この鐘しかなく、大変貴重なものです。

百濟といえば、西播磨地区は秦河勝との関係がいわれる地域です。お隣赤穂市坂越の大避神社の祭神は、大避大神（秦河勝）です。現在、大避神社の船祭りは国の無形民俗文化財に指定されています。船檀尻など特異なものが多く残されています。

慈眼寺の鐘は、戦国期の争乱を経て、英田郡土居村（現在の岡山県英田郡作東町）の土居八幡宮に移り、その後、明治11（1878）年に渡ったものとされています。